

[jal.com](https://www.jal.com)

トランジションボンド | サステナビリティ | JAL企業サイト

[トランジションボンド 発行概要](#)[トランジションボンド適格性に関する第三者評価 経済産業省モデル事例選定 投資表明一覧](#)[トランジションボンド・フレームワーク概要 レポート](#)

JALは、「2021-2025年度 JALグループ中期経営計画」において、「安全・安心」と「サステナビリティ」を未来への成長エンジンとして、「JAL Vision 2030」の実現に向け、「事業戦略」「財務戦略」に加え「ESG戦略」^{※1}を経営戦略の3本柱の一つとして設定しました。

特に、航空機による移動はほかの移動手段に比べてCO₂排出量が格段に多いことから、航空機からのCO₂排出量の削減は社会からの強い要請であり、航空業界における最重要課題の一つです。

JALグループでは、CO₂排出量の少ない省燃費性能の高い最新鋭の航空機への更新や、代替航空燃料(SAF)の搭載量拡大などにより、2050年の総排出量実質ゼロの目標達成を目指しています。

今回「SDGs債」の起債に際して、JALは「省燃費機材への更新」を資金用途とするトランジションボンドの発行を決定しました。

※1:「JAL Vision 2030」および2050年のCO₂総排出量実質ゼロに向けたシナリオを含むESG戦略については「[2021-2025年度 JALグループ中期経営計画PDF](#)」をご覧ください。

トランジションボンド 発行概要

こちらの表は横スクロールできます

社債の名称	日本航空株式会社第11・12回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)(トランジションボンド)	
発行年限(予定)	5年	10年
発行額(予定)	100億円	100億円
発行時期(予定)	2022年3月	
クーポン	未定	
資金用途(予定)	省燃費性能の高い最新鋭機材(A350・787など)への更新	
第三者評価機関	Sustainalytics(サステイナリティクス)	
社債格付	-	
社債要項	-	
発行登録追補目論見書	-	

トランジションボンド適格性に関する第三者評価

トランジションボンドの発行にあたり、国際資本市場協会 (ICMA) の定める「クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック (Climate Transition Finance Handbook) 2020」および「グリーンボンド原則 (Green Bond Principles) 2021」、金融庁・経済産業省・環境省の定める「クライメート・トランジション・ファイナンスに関する基本指針 2021年5月版」、環境省の定める「グリーンボンドガイドライン2020年版」に則り、トランジションボンド・フレームワークを策定しました。なお、本フレームワークは第三者評価機関であるSustainalyticsより、セカンドパーティ・オピニオンを取得しています。

経済産業省モデル事例選定

本社債は経済産業省の「令和3年度クライメート・トランジション・ファイナンスモデル事業」に係るモデル事例に本邦航空会社で初めて選定されています。

投資表明一覧

トランジションボンドへの投資表明をしていただいた投資家をご紹介します。発行次第、更新します。

トランジションボンド・フレームワーク概要

1. 調達資金の使途

トランジションボンドで調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たすプロジェクト (適格プロジェクト) に関連する新規投資および既存投資のリファイナンスへ充当します。なお、既存投資へ充当する場合は、トランジションボンド発行から3年以内に実施した支出に限ります。

こちらの表は横スクロールできます

プロジェクトカテゴリ	適格クライテリア	SDGsとの整合性
<ul style="list-style-type: none">省燃費機材への更新	<ul style="list-style-type: none">「2030年度までのCO₂削減の目標・取り組み」	<ul style="list-style-type: none">7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに

プロジェクトカテゴリ	適格クライテリア	SDGsとの整合性
<ul style="list-style-type: none">グリーンボンド原則クリーン輸送 (環境目的:気候変動の緩和)	に掲げた、省燃費性能の高い最新鋭機材 (A350・787など)への更新	<ul style="list-style-type: none">9.産業と技術革新の基盤をつくろう13.気候変動に具体的な対策を

2.プロジェクトの評価と選定のプロセス

当社財務部が関連する事業部門と協議を行い、適格クライテリアを満たす適格プロジェクトを選定します。トランジションボンドの発行に際し選定された適格プロジェクトについては、取締役会決議により委任を受けた財務・経理本部長が決定します。

事業の適格性の評価については、適格クライテリアをふまえ、総合的に分析・検討しています。また、事業の運営・実施にあたっては、関係する各部において周辺環境の保全に取り組んでいます。

3.調達資金の管理

当社ではトランジションボンドの発行による調達資金について、全額が充当されるまで年次で、当社財務部が内部管理システムを用いて調達資金の充当状況を管理します。トランジションボンドの調達資金相当額の全額が充当されるまでの間は、現金または現金同等物にて管理されます。なお、調達資金は、発行後36カ月以内に適格プロジェクトに充当する予定です。

レポートニング

資金の充当状況

当社は、適格プロジェクトに調達資金が全額充当されるまで、資金の充当状況を年次で当社ウェブサイト上に公表します。

開示内容は、プロジェクトカテゴリ単位での調達資金の充当額、調達資金の未充当額および調達資金の充当額のうち既存の支出として充当された金額です。なお、調達資金の充当計画に大き

な変更が生じるなどの重要な事象が生じた場合は、適時に開示します。

インパクト・レポート

当社は、トランジションボンドの調達資金が充当されるまでの間、以下の指標およびプロジェクト概要を、実務上可能な範囲で当社ウェブサイトにてレポートします。

プロジェクトカテゴリ

レポート項目

- 省燃費機材への更新
- 年間CO₂削減量

アニュアル・レビュー

当社は、トランジションボンド発行日から1年を経過する前に、レポートの内容が当社のトランジションボンド・フレームワークに適合しているかを評価するためのレビューを、独立した外部機関であるSustainalyticsから取得します。このレビューは、当該トランジションボンドの調達資金が全額充当されるまで年次で行う予定です。

PDFファイルをご覧いただくには、[Adobe Reader](#)別ウィンドウで開くが必要となります。